

答え合わせ・解説

問1	答え 2 口分田	6歳以上の男女に対し、戸籍の記載に従って一定面積の口分田を支給しました。農民はその土地で耕作する代わりに、租などの税を納める義務を負いました。土地は私有ではなく、本人が死亡した際には国に返還する決まりでした。
問2	答え 2 鎮護国家	鎮護国家とは、仏教の加護によって国を安定させ、平和を守ろうとする思想です。聖武天皇は、この思想を国家運営の柱とし、東大寺に巨大な大仏を造立しました。また、あわせて全国に国分寺や国分尼寺を建立させるなど、仏教による統治を強めました。
問3	答え 3 6歳以上	戸籍（庚午年籍など）を6年ごとに作り直し、6歳以上の男女に対して、身分や性別に応じた広さの口分田を貸し出しました。この制度により、政府は確実な徴税を目指しました。
問4	答え 4 荘園	こうして形成された私有地が荘園です。有力者は税を逃れるために土地を荘園として確保し、支配力を強めました。これにより、天皇を中心として全国の土地と民を直接支配する「公地公民」の制度が維持できなくなりました。
問5	答え 4 豪族	郡司は、国司の指揮下に入り、戸籍の作成や徴税の補助といった行政の実務を行いました。終身制であったため、現地の地盤を持つ豪族たちがその地位を世襲的に継承することが一般的でした。
問6	答え 4 東大寺	東大寺は、当時の都である平城京に建立された巨大な寺院です。特に聖武天皇が発願した「東大寺の大仏」は、当時の国家の威信と仏教への信仰心の象徴でした。この寺院の宝物を収める正倉院には、シルクロードを經由して伝わった多くの貴重な宝物が現在も保管されており、当時の国際交流の様子を伝えています。
問7	答え 2 東大寺の大仏	「東大寺の大仏」は、鎮護国家の精神を象徴する巨大な銅像です。完成には膨大な費用と人員が必要であり、聖武天皇は人望の厚い僧・行基に協力を仰ぎました。多くの民衆や貴族が造営に関わり、ようやく完成しました。
問8	答え 4 防人	防人は、大和朝廷が九州地方の防衛のために配置した兵士です。主に東国（現在の関東地方）の農民から徴兵され、長期間の任期で現地に派遣されました。万葉集には、故郷を離れる寂しさや任務の過酷さを歌った防人の歌が多く収められており、当時の人々の苦しい生活の様子を今に伝えています。
問9	答え 1 口分田	口分田（くぶんでん）は、戸籍に基づき、6歳以上のすべての人々に政府が支給した耕作地です。農民はこの田から上がる収穫に対して税（租）を納める義務がありました。しかし、奈良時代に入ると人口が増加したため、国家が支給できる田が足りなくなり、新たな開墾が進められる要因となりました。
問10	答え 2 墾田永年私財法	743年に制定された墾田永年私財法は、新しく開墾した土地の永代私有を認めるものです。それまでは一定期間後に土地を返還するルールでしたが、この法律により私有が認められたことで、農民や有力者による開墾が活発になりました。
問11	答え 2 西アジア	日本が派遣した遣唐使を通じて、唐には西アジアのペルシャ文化やインドの仏教美術などが流入していました。それらは日本にも伝わり、東大寺の正倉院に収められている宝物の中に、ガラス器や独特の模様が施された品々として確認できます。
問12	答え 3 天平文化	天平文化は、聖武天皇を中心とする貴族や仏教が主導した文化です。唐の影響だけでなく、シルクロードを通じて伝わった西アジアの文化の影響も強く見られ、国際的で豪華な特徴を持っています。代表例として、東大寺の大仏建立や、正倉院に保管されている宝物などがあります。
問13	答え 4 太政官	太政官は、八省を統括し、国政の運営を担当する最高機関です。長官である太政大臣を中心に、左大臣、右大臣などが政治の実務を行いました。
問14	答え 3 校倉造	校倉造は、断面が三角形の木材を井桁（いげた）に組んで壁を作る工法です。湿気が多いときは木材が膨らんで隙間をふさぎ、乾燥すると木材が縮んで風を通すという、自然の作用を利用した高い調湿機能を備えています。
問15	答え 1 平城京	710年に飛鳥から遷都された平城京は、当時の中国である唐の都・長安を模して作られました。道が碁盤の目状に整備され、天皇が住む宮殿を中心に官庁が並ぶ、本格的な計画都市でした。ここを拠点として、全国の国司を指揮し、租税を徴収する律令政治が行われました。